



金融街南町 大8

金沢市民の歌

■昭和24年3月25日制定(1949年)■

行進曲風に

小松 眞吾 作詞
今井 松雄 作曲

1. あさ ひ に は ゆ る は く さ ん の ゆ う
 2. コガ ネ ノ ホ ナ ミ ウ ミ ノ サ チ サ カ
 3. れ き し は と お き き ん じ ょ う に せ い

し は そ ら に そ そ ー り た ち な
 ュ ク ノ ソ ミ カ ギ ー り ナ ク ヤ
 き の う し お あ ら ー た な り わ

が れ ゆ た け き さ い が わ や か げ し ず か な る あ さ の が わ そ
 サ シ オ ト メ ノ オ ル ニ シ キ ク タ ニ ト ト モ ニ タ カ キ ナ ハ ウ
 か き り そ う に も ゆ る い き あ す の ふ ん か を き ず か ん と き

の ー ふ と こ ろ に は ぐ ー く め る わ
 ミ ー ジ ヲ コ エ テ カ オ ル ラ ン ワ
 ぼ う の か ね が な り ー わ た る わ

れ ー ら が み や こ か な ー ざ わ し
 レ ー ラ ガ ミ ヤ コ カ ナ ー ザ ワ シ
 れ ー ら が み や こ か な ー ざ わ し



さよなら電車 昭42

一 朝日にはゆる白山の
雄姿は空にそそり立ち
流れゆたけき犀川や
かげ静かなる浅野川
そのふとこに育める
われらが都 金沢市

二 黄金の穂波海の幸
栄ゆく望みかぎりなく
やさし乙女の織る錦
九谷とともに高き名は
海路を越えて薫るらん
われらが都 金沢市

三 歴史は遠き金城に
世紀の潮新たなり
若き理想に燃ゆる意気
明日の文化を築かんと
希望の鐘が鳴りわたる
われらが都 金沢市

♪ 明るく軽快に、表情豊かに歌いましょう

主なことばの意味

こがね ほなみ
黄金の穂波……稲穂が実って波のようにゆれ動くようす
おたぬ おにしき
乙女の織る錦……若い女性がつくる織物
くたに
九谷……九谷焼

うみし こ
海路を越えて…海を渡って外国へ
きんじょう
金城……金城雪隠



駅東広場完成予想図

市歌のつくられたころ

明治22年（1889年）に市となった金沢は、およそ30年が過ぎた大正9年（1921年）には、人口12万人をこす全国第11位の都市となっていました。

そのころ、市内電車が開通するなど近代都市としての整備もさかんにすすみ、近世ルネッサンス式のモダンな市役所の庁舎も建てられました。

大正12年には、第1回の金沢市祭（しさい）が開催され、花火、おどり、大名行列などの催しや小学生の旗行列などがにぎやかにくりだし、このとき「金沢市歌」がつけられました。

金沢の自然やまちなみ、そしてそこに住む人たちがいきいきとくらししていくすがたをとおして、金沢市が北陸の中心都市として大きく発展していこうという気持ちがこめられています。この歌は、市祭が百万石まつりにかわった今も、子供ちょうちん行列などに歌われています。

作詞者

こうのすけ もりひろ
鴻巣 盛広（1881～1941年）

国文学者。東京帝国大学を卒業し、第七高等学校教授をへて、大正5年から昭和16年まで金沢の第四高等学校の教授をつとめられました。25年をかけて研究された「万葉集全釈」は、大きな業績です。

作曲者

金沢市唱歌研究会

石川師範学校の大西安西先生が指導されていた唱歌研究会で作曲されました。

おほにし あんせい（？～1947年）

音楽教師。東京音楽学校を卒業し、昭和8年までの25年間石川師範学校で音楽科教授として音楽教師を指導育成されました。

市民の歌がつくられたころ

昭和20年（1945年）8月15日、第2次世界大戦は終わりました。人びとは平和で豊かな街づくりをめざす希望にみちていました。昭和22年には、第2回国民体育大会が金沢で開催され、市民に活力をあたえました。

昭和24年4月には、市制60周年記念式典が行われ、新しい都市建設の夢構想が発表され、これを記念して「金沢市民の歌」がつけられました。

小学校の連合運動会の際には、国歌歌の「若い力」とともに、子供たちがきびきびとリズム体操をしました。

この歌には、豊かな自然のなかにはぐくまれ、伝統的な金沢の産業を発展させ、歴史と文化の豊かな町にしたいという気持ちがこめられています。

作詞者

こまつ しんご
小松 眞吾（1923年～）

昭和23年に金沢市と新聞社が募集した「金沢市民の歌」に応募し、1位に入選したものです。

戦地から帰るとき、汽車から見える日本は焼けた町、荒れた土地ばかりでした。しかし、金沢の町は戦火もうけず、ほっとしました。この町が好きだ、明るい町として発展させたい…こんな思いでつくりました。（小松さんのお話）

作曲者

いまい まつお
今井 松雄（1899～1976年）

音楽家。東京音楽学校を卒業し、石川女子師範学校をへて、昭和35年まで金沢大学教育学部の教授をつとめられました。

このほか、金沢市には市制90周年を記念して制定された金沢市民憲章の歌「金木犀の匂う道」（作詞 中田敏明、作曲 小椋 桂）などがあります。

